



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



平成23年を振り返って

歯学部長 宮崎 隆

平成23年は3月11日の東日本大震災で多くの方が人命を落とし、被災しました。さらに東京電力福島第一原子力発電所の大事故による原発問題で、多くの方が被害を受け、我が国のみならず世界にも大きな影響がでました。被災地の復興はもとより、放射能問題対策などさまざまな社会問題が山積し、政治・経済が混沌としているなか、今年も年末を迎えました。



このような中で、歯学部と歯科医療を取り巻く環境は、昨年よりもさらに厳しいものがありました。しかし、平成23年は歯科医療関係者には大きな前進の年になったことを忘れてはいけません。それは、長年の悲願であった「歯科口腔保健の推進に関する法律(略称: 歯科口腔保健法)」が8月10日に公布・施行されたことです。歯科口腔保健法は、歯科口腔保健の推進に関する施策を総合的に推進するための法律であり、施策に関する基本理念と国・地方公共団体等の責務が定められ、歯科疾患の予防や口腔保健に関する調査研究をはじめ、国民が定期的に歯科検診を受けることの勧奨や、障害者・介護を必要とする高齢者が定期的に歯科検診や受診ができるようにすることなどを盛り込んでいます。今後の行政の対応を期待しますが、大学における歯学教育も国民の健康に貢献すべく歯科口腔保健の推進の方向に進めなくてはなりません。

本学では他大学に先駆けて、地域と連携した歯学教育(社会と歯科医療コース)、高齢者をはじめ特別な配慮の必要な患者に対する診療科の整備(高齢者歯科、口腔リハビリテーション科、障害者歯科、総合歯科)や、昭和大学口腔ケアセンターの設置によるチーム医療に力をいれ実績を挙げてきました。今年3月には、横浜市北部病院に歯科を開設し、これまでの大学病院、藤が丘病院、烏山病院の歯科同様に院内の医療連携と地域連携を進めています。3月の大震災では、口腔リハビリテーション医学講座の高橋教授をはじめ、多くの歯学部教員や歯科病院スタッフが昭和大学医療救援隊に参加して、岩手県山田町でオール昭和のチームの一員として活動しました。

このように平成23年は日本の社会にとって試練の年でしたが、私達歯学部には確実に一歩前進した年であったと思います。教育・診療・研究の現場で支えていただいた皆様に感謝するとともに、新しい年が希望に満ちた年になることを期待しています。

日本学生機構 優秀学生顕彰 学術部門 大賞を受賞して 歯学部 5年 塚崎 雅之



12月10日、アルカディア市ヶ谷(私学会館)で優秀学生顕彰の表彰式と祝賀会が行われました。本顕彰は、(独)日本学生機構が学術、文化・芸術、スポーツ、社会貢献の分野で優れた業績を挙げた学生を表彰するもので、歴代受賞者にはオリンピックのメダリストを含め、著名な方々が名を連ねています。私は本年度の学術部門で、最高位の「大賞」に選出頂きました。

当日は、各分野の大賞13名と優秀賞22名が招待され、表彰式では、表彰状と目録の授与に続き、文部科学省や機構理事長からお言葉を頂きました。祝賀会では大賞受賞者がスピーチやパフォーマンスを披露し、私も受賞対象の骨代謝研究を説明しました。スポーツ分野では、ロンドンオリンピックでメダルを期待されている方も多く、「日の丸を背負い、必ずメダルを持ち帰ります」という力強いスピーチが印象的でした。

本当に素晴らしい受賞者の方々の中で、私がこのような荣誉ある賞を頂けたのは、常日頃から研究をご指導いただいている、口腔生化学教室の先生方のお陰です。国際論文や多くの学会発表など、貴重な経験を積む機会を与えて下さった上條竜太郎教授ならびに、直接研究をご指導いただいている、山田篤先生に心から感謝申し上げます。



教授就任にあたって

総合診療歯科学講座 長谷川 篤司

この度、総合診療歯科学講座教授を拝命させていただくことになりました長谷川篤司です。私は本学歯学部3回生として昭和60年3月に卒業いたしました。卒業後の約19年間は本学歯学部歯科保存第二講座（現歯科保存学講座）で保存修復学を専門に担当してまいりました。この間に本学医学部第一薬理学講座（現医科薬理学講座）で歯科材料の生体膜に対する薬理作用、米国アラバマ州立大学歯学部生体材料学教室で有機材料の歯質接着性などの研究に従事する機会を得ました。その後、平成16年に診療科として新設された総合診療歯科の科長に就任し、臨床研修医とともに患者中心の（一口腔単位の）総合診療の確立を目標に外来診療システムの改善に努めてまいりましたが、8年目を迎え、ようやくPOS(Patient Oriented System)に基づく総合診療が外来診療システムとして定着したのを実感しております。



一口腔単位の総合診療で重要なのは、十分な診察・検査によって現症を的確に診断・治療処置するだけでなく、気付かないうちに病的な状態に向かっている、俗に言う「未病」の状態をも認識し、生活習慣指導などをも含めた方向修正に貢献することだと考えております。このような時、研修医だからこそできる患者さんとのコミュニケーションと真摯な説明や提案が我々の外来の大きな原動力になってくれています。

ここ数年、当講座は臨床研修に加えて臨床実習のマネジメントをも担当しており、卒前から卒業までの臨床技能研修をいかに整合性のある流れとして提供し、習得の支援ができるかに取り組んでいます。学生が実習した事や成果物をオンラインで容易に振り返って確認出来るようにする電子ポートフォリオシステムもその一環であり、画像や動画記録などの収録も含めてこのシステムの充実に取り組むとともに、学習者が習得すべき臨床技能の全体像と自分の立ち位置を認識することでよりモチベーション高く実習に取り組める環境を整備したいと考えております。

浅学非才の身ではありますが、だからこそ学生や研修医と同じ目線で本当に利用しやすい学習（研修）環境の整備を進めたいと考えております。このためには臨床・基礎講座の教員の先生方だけでなく、教務をはじめとする事務方の皆さまのご理解とご協力が不可欠です。どうぞ、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

教授就任にあたって

歯学教育学講座 片岡 竜太

11月8日付けで歯学教育学講座教授を拝命いたしました。歯科医学教育推進室長を拝命してから3年半が経過し、その間主に歯学部の教育改革、学部間連携教育の推進に取り組んで参りました。学部長、教育委員長をはじめとする先生方のご指導ならびにご協力のお陰で、「昭和大学歯学部学生が卒業時に有している臨床能力(コンピテンシー)」を制定し、このコンピテンシーを身につけるための6年一貫教育、その能力が身についたかどうか確認するためのi-OSCAの実施という流れができました。



また文科省の医療人 GP の補助を受けて行っている「医系総合大学の特色を活かした参加型チーム医療学習による医療人養成カリキュラム」の構築も1年～6年次まで完成し、現5年生は1年次からこのチーム医療教育を受けています。このチーム医療教育は本学が参画している戦略的8大学連携プログラムである「口腔医学の創設」とも関連が深く、社会が歯科医療に求めるニーズである全身と関連づけて口腔を診ることができる歯科医師を養成することにもつながり、医系総合大学の歯学部である本学が推進すべき方向であると考えております。チーム医療教育および口腔医学教育を行うためには、医療人としてのコミュニケーション能力と信頼性の高い情報を入手して、歯科医療に活用する能力は必須です。そこでコミュニケーションと情報リテラシー教育に関しても6年一貫教育を実施しております。今後も医学部・薬学部・保健医療学部と歯学教育推進室長として、密な連携をとりながら、本学部が進むべき道を模索していきたいと考えております。

学生の気質や特性は年々変化するため、その変化を把握することは、教育方法を考え、教育効果を高めるためにも重要であると考えます。すでに導入されている指導担任制度に加えて、学部連携教育にも導入された電子ポートフォリオシステムを活用することで、個々の学生の特性や興味および学び方の違いに考慮した教育を増やすことができれば、より教育効果を高めることができると考えます。e-learning や電子ポートフォリオなどのICTの活用も促進して、学生と教員間のコミュニケーションを活性化させることにより、双方向型の教育を広め教育効果を高める事に精一杯努めていきたいと思っておりますのでよろしくご指導ご支援お願い致します。

上條奨学賞(教育功績)を受賞して

口腔解剖学講座 中村 雅典

この度、平成23年度上條奨学賞(教育功績)の授与を受けました。本学の創設者でもある上條秀介先生ゆかりの栄誉ある賞を受賞いたしましたことを大変光栄に思います。課題名は「歯学教育への能動的学習法の導入」でした。平成15年から開始された問題基盤型学習(PBL)の歯学教育への導入が候補になったものと思われまふ。教育の定義は「学習者に価値ある行動の変化をもたらすこと」とされています。本学の教育の理念のひとつである「高い倫理性と豊かな社会性を備え、生涯にわたって学習・研究を怠らず医療の向上に邁進する」を実践するため、この教育方略の導入に踏み切った本学歯学部諸先生の先見性は特筆すべきものであり、私はその実践部隊の一員として運営にあたることのできたのは教育に携わるものとして誠に栄誉あることと思ひます。現在では医・歯・薬・保健医療の4学部間連携教育の重要な教育手法として昭和大学全体に採用されています。開始当初は教員誰もが経験なく、手探り状態で行ってきましたが、現在ではPBLを体験した学生がファシリテータとして教育に参加するようになってきました。今後は、このような教員に支えられながら、新しい自己主動教育の道が拓かれることが期待されます。皆様のご協力を心からお願い申し上げます。



力ある診療に結び付く臨床応用を見据えた研究を進めたいと考えております。

本賞受賞をより良い臨床、研究、教育を実践してゆくための糧とし、昭和大学の発展に少しでも寄与できればと考えております。今後ともご指導、ご鞭撻の程、何とぞよろしくお願い申し上げます。

昭和歯学会が開催されました

口腔解剖学教室 中村 雅典



12月3日土曜日に第31回昭和歯学会例会が昭和大学歯科病院第二臨床講堂で開催されました。今回は特別講演1題、研究紹介講演1題と一般講演30題でした。特別講演は鶴見大学歯学部探索歯学講座の

花田信弘教授による「歯科医療が始める健康戦略」、研究紹介講演は本学に4月から赴任された歯科麻酔学講座の飯島毅彦教授による「体液管理の過去と未来」でした。

花田先生は歯科疾患をプレバイオティクス、プロバイオティクス、アンチバイオティクスという3つのステージの考え方から、口腔内常在菌の疾患時のバランスの崩れ、その



正常な細菌叢への回復の手段等についてご自身のこれまでのご研究を中心にお示しになり、細菌叢の正常化へのための正しい保健指導へ歯科医療が積極的に参加することの重要性についてお話しいただきました。

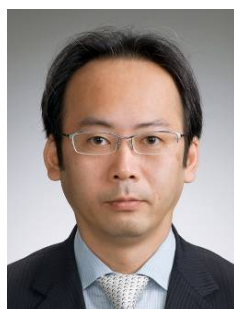
飯島先生は、これまでのご自身のご研究ならびに杏林大学医学部麻酔科での豊富な臨床経験を基づいた全身の体液管理の重要性とこれからの昭和大学における診療の抱負についてお話しいただきました。



上條奨学賞(研究業績)を受賞して

歯科矯正学講座 山口 徹太郎

この度、平成23年度上條奨学賞(研究業績)に選出いただきました。関係各位に深く感謝申し上げます。平成7年に昭和大学を卒業、平成12年に昭和大学大学院歯学研究科を修了の後、現在まで歯学部歯科矯正学教室で臨床、教育、研究に従事させていただいてきました。



受賞テーマは「顎口腔領域における形質の遺伝子同定に関する研究」です。これまで大学院生の頃から柴崎好伸現名誉教授、榎宏太郎主任教授のご指導のもと、臨床に直結したテーマとして一貫して取り組んでまいりました。永久歯の萌出不全、永久歯の形態、成長発育に関連した頭蓋顎顔面形態、歯根吸収など歯科矯正臨床に身近な問題に対し、ゲノム解析から関与する因子についていくつか明らかにすることができました。今後、さらに多くの疾患、形質に関与する複数の因子を同定し、病態の理解にとどまることなく、魅

昇任・採用

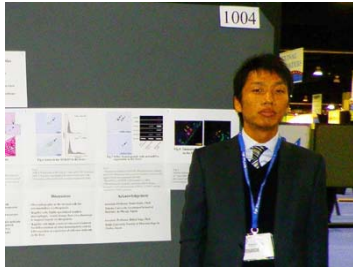
広報委員長 井上 富雄

・江川 薫 教授(員外) (口腔解剖学講座)

アメリカ消化器病学会で発表しました

大学院4年(口腔解剖学専攻) 大塚 裕忠

10月28日から11月2日まで米国ワシントンDCで開催された、米国消化器病学会に行ってきました。今回、海外発表の場にこの学会を選んだ理由は、



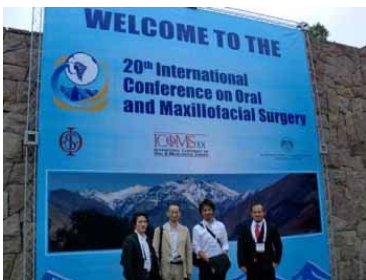
これからの歯学研究において、歯や口腔のことだけを理解するのではなく、口腔を消化器の一部として捉え、口腔から全身へとその理解を深めるとともに、基礎研究から臨床分野への応用が必要となってきたと感じたためです。私自身は歯科医師ではありませんが、本学に来て3年半、歯科の重要性と今後の展望について理解を進めてきたつもりであり、今回の海外発表もそれにつながるものと考えて発表に臨みました。

発表のテーマは、歯学のみならず医学領域でも話題となっている窒素含有型ビスホスホネートに関するもので、他分野にも拘わらず、消化器病専門医の先生からご質問を頂き、非常に意義を感じました。十分に答えられたかは疑問ではありますが、今回の海外発表により、自らの研究に対する周囲の評価や新たな課題についても見出すことが出来たと思います。

今回の発表は私個人にとって大変有意義なものでした。今回得た経験を周囲と共有することにより、本学歯学部へフィードバック出来ればと考えています。

第20回国際口腔外科学会で発表しました

顎口腔疾患制御外科学講座 近藤 誠二



去る11月1-4日の期間中、チリ サンチアゴで開催された第20回国際口腔外科学会に参加してきました。チリ共和国はご存知の如く南アメリカ大陸の太平洋側に面した南

北4,300km、東西175kmと南北に細長い国で、面積は約756,000km²で日本の面積の約2倍です。私にとってはなかなか訪れる機会がない国で、服装の準備も全く想像が付きませんでした。晩秋の日本からアトランタ経由で約20時間かけて訪れたサンチアゴは、ちょうど初夏を迎える季節で学会開催として良い日和でした。当講座からは私他、朽名助教、曾我大学院生の合計3名で参加し、口腔扁平上皮癌の治療に関する基礎研究から臨床に関する幅広い内容で、それぞれ直近の研究成果を発表しました。われわれアジア圏の他、地元・近隣国はもとより、欧州、アフリ

カ圏からも多数の発表演題があり非常に盛会でした。余談ですが、会場と滞在ホテルが20km程離れていたため、地下鉄とタクシーを乗り継いで通わなければならない状況でした。地下鉄カード購入時やタクシーではなかなか意志疎通が難しく(公用語はスペイン語)、特にタクシー利用時は、同一区間にもかかわらず、ばらつきのある料金設定で苦労しました。しかし、食事は旧市街の中央市場に隣接するレストランに繰り出し、チリ料理に舌鼓を打ちながら、皆で楽しい一時を過ごしました。朽名、曾我両先生にとって国際学会参加は初めての経験だったそうで、海外ならではの日常のこまごまとした苦労も含めて学際的で有意義な経験を積ませて頂きました。



受賞

広報委員長 井上 富雄

- ・小野美樹(歯科矯正学 大学院4年):11月19日(土)、「Identification and isolation of neural crest cells in nasal concha」で、平成23年度日本口腔組織培養学会学術奨励賞を受賞されました。
- ・後藤大作(総合診療歯科学):11月20日(日)、第4回総合歯科協議会・学術大会で「臨床研修歯科医による診療ガイドラインの推奨度への同意」で優秀発表賞を受賞されました。

診療統計(平成23年11月分)

医事課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	17,768	772.5	723.4	768.6
入院患者	298	9.9	13.0	14.3

行事予定

広報委員長 井上 富雄

- 1月14日, 15日: センター試験
- 1月26日: 歯学部選抜Ⅰ期入試・センター試験利用Ⅰ期入試
- 2月1日: 共用試験 CBT
- 2月4日, 5日: 第105回歯科医師国家試験
- 2月18日: 歯学研究科Ⅱ期入試
- 2月19日: 共用試験 OSCE
- 2月26日: 歯学部選抜Ⅱ期入試・センター試験利用Ⅱ期入試・編入Ⅱ期入試
- 2月29日: 共用試験 CBT 追・再試

編集後記

口腔生化学講座 宮本 洋一

暮れのお忙しいなかご執筆下さった皆様に御礼申し上げます。ゆく年を思い、来る年の平和を心からお祈りいたします。